

「二館合同特別展

—そして続いていく—

2月8日(土)～3月20日(木・祝)

休館日/毎週月曜日
(月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館)

【関連企画】

- ① 館長または学芸員による作品解説
会期中毎日曜日 14時～ 場所：展示室
- ② ギャラリートーク
2月9日(日) 14時～ 場所：香美市立美術館
3月30日(日) 14時～ 場所：中土佐町立美術館
- ③ 二館合同スタンプラリー
場所：中土佐町立美術館・香美市立美術館



▲「森の音楽会」横山千春 2024年



▲「Angelus Novus」坂本聖斗 2024年



▲「傷の夢」大場真美 2024年



▲「No Rain, No Rainbow」中平さやか 2024年

香美市立美術館

アートの窓



県内で最初に開設された中土佐町立美術館と、県内で県立美術館に次ぐ規模の当館が、それぞれの特性を生かし、若手作家の育成を目指して企画した特別展です。県内の若手作家16名を選出し、それぞれの館に16名の作品を展示します。

【出品作家】

今崎順生、大場真美、花織、坂本聖斗、島村悠、田中愛子、中平さやか、深浦亜希、山崎天峰、山中美佳、横山千春、依岡みどり、杉本春奈、玉木かつこ、丸岡敬子、横江孝治

(館長 都築房子)

香美市文芸

風の流氷

◆一般投稿作品◆

広報委員会 選

「んだ」なして「鳥賊の塩辛(すず)りこむ 明石 菲生
初詣で心ばかりで手を合(あ)わす 伊藤 清子
お日様の沈む山見る冬至前 五百蔵利美
主(ぬ)し亡き家真つ赤に照りしピラカンサ 久保 和子
晩学の季寄せ片手の炬燵(こたつ)かな 竹村 咲子
根の裂けて古(ふる)りにし梅やつぼみ抱く 中村 定子
散紅葉池の底まで染めつくし なず な
猪憎(ぶ)めど「ヌタ場」の脇の寒すみれ 原 茂
抜け出れぬ蒲団の温さまどろみぬ 宮地 美代

◆とさやまだファミリア◆

モミの木に幼な子叫ぶサンタ来て 恵美子
聖夜の目冷える身体が恋慕(こぼ)う サンタ
クリスマスもののねあがりこたうぞね 里 花
新年は門松紙で祝ふ年 雅 子
此の足で踏んで見たいな霜柱 八王子小太郎
遠き日の下駄でふみふみ霜柱 ゆりねえ

◆「涛光」グループ◆

猪に出合ひし恐怖いわし雲 門田 京子
おほかたは名も知らざりて草の花 前川 恵女
六軒で神社を守る里の秋 秋山 英身
朝ドラのアンパンの里万緑(り) 大場比奈子
梢(も)に百舌鳥(もず)絵本のような散歩道 井上 佐和
八千草のくれなる匂ふ夕明り 山岸 孝子
長月ややさしい本に泣かされて 中橋 京子
風さやか香焚(た)きしめし釜の湯気 小松 美鶴
初詣で長い参道人の波 藤本すみ子
本年を最後にしますと賀状くる 秋 星
秋の日や日暮れて気づく誕生日 原 恭子
桂の葉足音香る帰り道 明神かおり
散歩道追いつけ追いこせ花(はな)笥(かた) 吉川 恵樹
庭先の鳥と寄りそう冬(ふゆ)薔薇(びび) 上山このか
幼子の手にも大きな握りし芋 溝渕 龍泉

◆かほく俳句会◆

冬晴の空の果てなる宇宙かな 乾 真紀子
一つ家に住み古る夫婦落葉掃く 佐竹 洋子
わざわざに鴨を見に行くこともせず 津田吾燈人
十二月赤き値札の荒物屋 野村 里史
人生はよりそふ心雑煮餅 古川 信子
自動詞でなく他動詞の冬ごもり 宮崎ただし
栗紐(りぢい)折り込みて閉(と)づ古日記 山崎かずみ
一献(いっけん)に浸る山姥(やまんば)虎落笛(こらふえ) 山崎 鈴子

今月のキラリ

広報委員会

晩学の季寄せ片手の炬燵(こた)かな
季寄せは、俳諧(はいかい)の四季(しき)の詞(ことば)(季語)寄せの略で、季語を集め例句を掲げた書です。その季寄せを片手に、炬燵(こた)に入り好みの季語を読み、例句を見てみると、晩学(ばんがく)とは言え、炬燵(こた)の暖かさだけではない、あつく胸に期(き)する思いが湧いて来た作者。あたたかく、豊かな時間を詠まれた一句。
(季語：炬燵(こた)(冬))

根の裂けて古(ふる)りにし梅やつぼみ抱く
梅は別名、春告草(はるつげ)とも呼ばれ、早春の冷たい空気の中で香り高い五弁の花を開く。庭の梅の木でしょうか、盆梅(ぼんばい)でしょうか。大きく根を張り、中には裂けている根も見受けられる梅の古木。その梅の木につぼみを見つけ、その状態を「つぼみ抱く」と表現された写生力の確かさ。春を待つ心情を、梅のつぼみに託し詠まれた一句。
(季語：梅(春))

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼投稿先 総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌係」
〒782-18501 (住所記載不要) FAX 53・5958

香美市森林環境税活用事業 申し込みいただいた方からの投稿を募集しています!!

かみんぐBABY木のギフト

『木のギフト』お便り紹介

れなちゃん

いろいろな木の香りが部屋中に広がり、積み木を出すたびに癒されています。入れ物も可愛く、程よい大きさなので置き場所にも困らず片付けられます。娘は1歳半になり、積み木を積み上げて遊んだり入れ物に入ってみたり、裏返して登ってみたりと楽しく遊ばせてもらっています。



香美市から木のギフトを受け取られた皆さんからのご感想、写真を募集しています。投稿者の氏名、写真、写真に映っている方の名前(ペンネームで構いません)と感想を、下のメールアドレスまでお送りください。

香美市の赤ちゃんに『木のギフト』をプレゼントしています。詳しくは、新生児訪問の際にお渡しするパンフレットまたは、香美市ホームページ内の特設ページをご覧ください。

【問い合わせ先】農林課林政班 ☎52-9283 ✉rinsei@city.kami.lg.jp

